



銀閣寺

中村医院
中村 義清

去る4月に、第109回日本内科学会並びに日本臨床内科医会総会が京都で開催された。京都を訪ねるのは十数年前の内科学会開催以来であるので久し振りである。

土曜日の晩に、内科医会の伊集守政会長と京都料理に舌鼓を打ちながら日本酒を熱燗で結構飲み干した。その日は寝つきも悪く二日酔するのではと心配したが、意外にも翌朝の目覚めはすっきりしていた。取り敢えず「みやこめっせ」での内科学会の受付を済ませた後に日本臨床内科医会総会が開催される「京都国際会館」に向う手はずであるが、少し時間的に余裕があるので「銀閣寺」に立ち寄った。

銀閣寺道から銀閣寺に至る長い参道であるが、総門まできれいな石畳が続いている。総門から中門までの参道の両脇は、まったく見通しのきかない高い生垣が約50メートル続いている。その生垣は、椿の枝を丁寧に切り揃えてできた緑の塀で「銀閣寺垣」と呼ばれ、而も、4月であるので椿の花がちりばめられ美しい光景であった。

そこを通り抜けると銀閣寺の庭園と本堂が目飛び込んできた。決して大きくはないが、手入れの行き届いた庭園の一部には白い砂が敷き詰められていた。あまりにも不思議な光景なので後で調べてみた。

本堂の南面にあるほぼ四角の砂盛りを「銀沙灘」(ギンシャダン)と言ひ、高さ約60cmの壇状になり南の部分は大きく湾曲し、上面には美しい線状の縞模様が描かれている。灘(ダン)とは、大海原を意味し中国の西湖を模っているとされる。その南に接する高さ約180cmの円錐盛りの「向月台」は、月を鑑賞するためのもの

のだそうで、初めて見る人に不思議な印象を与える。

日本の建築は、屋根と柱と壁の構造によって、光を横から或は斜めから取り入れる仕組みになっている。「銀沙灘」は見た目の美しさだけでなく、太陽や月の光など、自然の光の反射を室内の明かりとして採光する役目も果たしているという。「銀沙灘」に使用されている砂は白川砂で、花崗岩が細かく砕けてできた京都特産の砂である。光の反射率は、雪のそれにほぼ匹敵するようで、因みに、雪の80~98%に対し、白川砂のそれは80%であると言われている。

観光客の中に外国人が数名おり熱心に観覧していた。室町時代の高度な技術で造り上げられた「わびさび」の世界が、外国人の目にどう映り、なにを感じているのか聞いてみたい衝動にかられた。しかし、質問は何とかできたとしても、相手が答える微妙な感覚的表現を聞き分ける自信が全くないので止めることとし、銀閣寺を後にした。

日本臨床内科医会総会は、10時に開催された。会長挨拶後に、協議・報告事項があり、引き続きメインの2席の特別講演「①平成24年度診療報酬の改定について、②糖尿病のインスリン療法—私の糖尿病60年」が行なわれた

総会の途中で、恰幅のいい貫録のある老医師がかけより、「もしかして東風平の中村義清君ではないかと」と声をかけられた。一瞬、見慣れない方なのでドキッとしたが、お顔をじっと見ますと中学・高校時代の2期先輩の野原孝清兄であることに気がついた。先生が鳥取大学医学部の学生時代に一度会ったことがあるので、逆算すると54・5年振りの再会である。旧東風平村(現八重瀬町)の出身で小・中・高校と学び舎を共にした三人が、期せずして医学の道に進み、こうして会うことは全くの奇遇である。

先生は、京都府の救急病院に鳥取大学から派遣されたのがきっかけで、京都に移り住むようになられたようである。元来は外科医として招聘されたが、救急病院なのでどの科の患者への対応も求められ、脳外科も併任され

ていたと言う。救急病院時代が長かったこともあって府の内科会の先生方とも懇意になり、当日は京都府内科医会の役員の方の要請で出席されたそうである。

三人とも揃って懇親会に臨んだが、先生は京都府内科医会の余昌英会長とは昵懇の間柄で、伊集会長と共に余会長に紹介された。

暫時ではあったが、昔を懐かしみながらの懇親、誠に有意義であった。

懇親会が進むにつれ、野原先生が一時期の京都府医師会の重要な役割を担われ、そして今は重鎮としての位置におられることを、壇上で挨拶される先生方や内科会の主だった役員の方々との接し方が雄弁に物語っていた。その光景を見て、ある種の誇らしさを感じながら懇親会場を後にし、帰路についた。



定年退職後の選択

嶺井第一病院 総合内科
西平 竹夫

私は平成 20 年 3 月 31 日公務員医師を退職した。その数ヶ月前に県庁主催のライフプランセミナーで「実りある人生を送るために」「家庭経済について」「生きがい開発について」「沖縄県職員の退職手当について」「共済年金について」「ライフプランの必要性」「マネー新時代の資産管理」等々の講義や質疑応答があった。ライフマネジメントを必要とする背景として①社会の変化に対してどのように対処したらよいか②自ら豊かな人生を築いていく心構え③自分はどうような生き方をしたいのか。ライフマネジメントに必要な 3 つのプラン①心身の健康管理プラン②生涯経済プラン～これから必要なお金の準備はできていますか③生きがい開発プラン～仕事以外にやっていることがありますか。意識調査による月額生活費から夫婦の生活期間

を今後 22 年と試算してゆとりある生活に約 7 千万円～1 億円前後必要であること。人生の長期化で 60 歳時点での平均寿命は男性で 22.09 年、女性は 27.6 年、健康寿命はそれから数年差し引いた値になる。

以上を前置きにして私は、まずは 80 歳健康長寿を目指して仕事を週に 2～3 回、あとは自由とする選択をした。現在、嶺井第一病院と、総合保健協会で大変お世話になっているが、あれから 4 年間、夢のように過ぎ去り、健康は忍び寄る老化現象で決して万全とはいえないが毎年の人間ドックでチェック、修正に心がけ、増えた自由な時間は先人の教えに学ぶべく適度に読書人生を満喫している。これまでの現役時代はなにかと時間に追われ体の悲鳴は薬で抑え込む毎日であったが、それも解放されつつありストレスに対する痛みの域値が上がったと解釈している。慢性頭痛の患者さんが外来にも見えるが、ストレス多き現代生活では対応は一進一退であり、定年後に痛みがやっと薄らぎ、深夜の痛みから解放されている方もいる。

思えば我々の人生は中学生で将来の高校進学選択を、高校生は大学進学、進路選択をしいられ、大学では専門科目習得に努力し、医学部卒業後は研修生、専門試験等々で、ただ一筋に専門関連部門にまい進するのみで、65 歳でやっと自由の身になれるのは人生の選択で最高の恩典と考えたい。気力充実している方はさらに今まで通り継続もまた選択肢の一つであろう。私にとっては自由、適度の仕事、スローライフは最高の第二の人生行路である。高齢者がかかえる 3K として①誰もが抱える健康への不安②経済的不安③孤独が挙げられているが社会との接点を保つためにもパートの仕事は最適かと思われる。

男児志を立てて郷関を出ず、学もし成る無くんば復帰らず一立志の歌は若者には向いても老齢期には受入れ難い。青春とは人生のある期間ではなく心の持ち方をいう。年を重ねただけでは人は老いない、理想を失うとき初めて老いる。楽天主義と思う節もあるが、ウルマンの一連の

詩は単純な老齡賛歌ではなく死をどう見ていたかも識者はコメントしている。私が船出する時嘆きの涙は 欲しくないー共に過ごした日々を喜んでほしい、そしてこう言ってほしい「満ち潮だ。よい船旅を」と結んでいる。老齡期は日めくりカレンダーのごとく一刻一刻と足早に過ぎ去っていく。心の底には生への畏敬か煩悩のなせる業か、もやもやとしたものが流れている。



真鯛の棒浮釣り

協同にじくりニック所長
仲西 常雄

魚釣りを趣味にしている。7年程前に、長崎に診療応援に行く機会があり、そこで非常に珍しい興味深い釣りに出会った。なんと2m近い長い棒のような浮を使って真鯛を釣るのである。大相撲で優勝した横綱の祝いの席など、日本ではおめでたい時に欠かせない、あの大真鯛である。沖縄で釣っている、タマン（ハマフエフキ）、シルイユー（シロダイ）、アカジンミーバイ（スジアラ）、ガーラ（カスマアジ）、カジキ、マグロ、カツオ、グルクン（タカサゴ）釣りなどは全く違う釣り方であり、奥深くおもしろい釣りである。

釣りの世界では、真鯛（マダイ）は見た目には姿よし、釣って引きよし、食して味よし、と三拍子そろった最高の釣魚とされている。「日本の釣り百科」（西東社）によると沖縄と北海道を除く、全国各地の沿岸で釣れている。祝い事には欠かせない鯛は古くから日本人の生活と密着しており、釣り方もそれぞれの地方で違い、テンヤ釣り、シャクリ釣り、カブラ釣り、胴突き仕掛けなど様々な仕掛けや工夫がされているようである。

中でも長崎の棒浮つり（又は、棒浮ながし釣り）は独特である。「日本の釣り百科」には紹

介されていないので、オキアミをまき餌として使うようになった最近（ここ20年位）になって編み出された釣法だと思われる。

さて、その仕掛けであるが、ハリス6号という細い糸を10尋（約15m位）使い、2m毎にビーズを入れ、枝針を5～6本付ける、枝の長さは腕の長さ位。針は鯛バリ12～13号を使う。テンピンを介して道糸に結ぶ。テンピンにはエサかごを付け、80号の鉛を下げる。その重りに耐えるように、2m近い長い棒浮と浮止め用のビーズを道糸に通しておかなければならない。リールは流し釣り用の電動リールに新素材糸6号を200～300m巻いておく。竿は80号の3.5～5mの長めの物がよい。

釣りは魚と釣り人の知恵くらべ、だまし合いである。真鯛は海底ではなく、中層を泳いでいるらしい。真鯛が泳いでいる深さまで仕掛けをおろすのであるが、この鯛が泳いでいる水深を予想する棚とりが一番難しいのである。棚を深くすると鯛以外の魚に餌を盗られてしまう。餌の盗られ方を見て、棚の深さを1m単位で調整していく。潮の流れや、海水温の変化などによって鯛が泳いでいる棚は変わっていくので、それにどう合わせるのか釣り人の技量が問われるところである。

竿を振って餌カゴから振り出したまき餌が、テンピンの先のエビを付けた枝針を巻き込んで流れてくれば、まき餌に誘われて寄ってきた真鯛が針の付いたエビも間違っただけでしかも確率が高くなる理屈であるが、実際はなかなか単純ではない。まき餌と枝針をうまく同調させるには、餌カゴからのまき餌の振り出し具合、枝針のハリスの長さ、潮の流れ具合などが絡んでくる。潮の流れは時間単位で変わっていく、鯛が泳いでいる棚も午前と午後では違うので、同じ仕掛けでいつも釣れるというわけではない。たかが釣りとはいえ、なかなか奥深く面白いのである。

鯛は動きのある餌に瞬時に反応する習性があるらしいので、置き竿より竿を持って誘いをかける方がだまし易い。針を結ぶ糸は細いほどよ

いが、あまり細いと大きい魚が喰った時に切られてしまうリスクがある。喰い渋る時は糸をさらに細くして、「これならどうだ」とかけひきも必要になる。糸がよじれていたりすると、警戒し喰わなくなるので、常にピンと張ったキズやよじれの無いハリスに変えるなど細心の気配りが要求される。鯛は周年釣れるが、九州では産卵期前の3～4月、鮮やかなピンク色の「さくら鯛」のころが旬である。養殖真鯛とはちがい、きれいなピンク色をしてる。この時期は産卵を前に採餌活動が活発になるので、漁師は「乗っこみ」状態になったという表現をする。

「乗っこみ」の時期を狙って、この7年間長崎の真鯛に餌を配りにいっている。準備を整えて、今年も4月中旬に長崎に遠征釣行となった。初日は天気晴朗なれど波高し、出港をあきらめて、花見に変更。2日目は、絶好の好天に恵まれ、午前3時半に出港。5時過ぎには、ポイント到着、まだ薄暗い。しかし、既に20数隻の釣り船が場所取りをしている。船長はポイントを定めて素早くアンカーを打ち、船を固定する。夜明けとともに、第1投の仕掛けを流す。ワクワクして、期待に胸がふくらむ瞬間である。いよいよ真鯛との駆け引きと格闘であるが、残念ながら字数が足りなくなりました。すみません、今年も大漁でした。クール宅急便で運んでもらった天然真鯛(1.5～3.0kg)を、さしみ、あら煮、うしお汁、西京焼き、鯛めしなど鯛づくしパーティーを十分に楽しむ事ができました。



独白；組織の花



ちばなクリニック

仲田 清剛

何年か前のある日、unhappyな学生時代には行けなかった香椎花園(かしいかえん、福岡市在)を、淡い夢を辿るような気持ちで訪れた。天気は良いのに平日のせいか入場者は2～3組と少なく、華やかだっと思われる遊園地の中を、夢が少しずつ霧散するような気で散策していると、花壇のはずれの一角に花を見つけた。

中央に小さな中性花が200個ぐらいあり、周辺を包むように外側に大きな修飾花(両性花)の茎が細長く輪を保っているように見える花たちの集団であった。

「この花はガク紫陽花よ」と伴侶が教えてくれた。

「いやこれは組織の花だ。中央の小さな中性花は各部署を表し、細長い茎はBSC(バランススコアカード)という糸で周りの大きな花びらのような両性花(トップグループ)と結び付いている」と自画自賛した。(BSCとは目標達成のためのトップとフロントを結ぶマネジメントツール)

その後、組織のイメージ像としてガク紫陽花をパワーポイントで使った。



最近、「組織が世紀を超えて存続するにはどうしたら良いのか?」という命題が大きく圧



し掛かっている。

古典的には、組織は「相互に意思を伝達できる人々が、行為を提供しようとする意欲を持って、共通の目的を達成しようとするときに成立する」と言われている。

これを病院・クリニックに適用すると「全職員で医療を提供するという使命をいかに成就するか」という点に集約されるので、原点を絶えず検証、再構築して行くことが求められる。

そして組織は有為転変して行くことから、存在基盤である組織の目的により共同体組織と機能体組織に分けられている。

構成員の満足を目的として能力よりも人柄を重視する共同体では全員一丸となるが調和されるので到達レベルは平均とならざるを得ない。外的目的を掲げその達成に努力する能力重視の機能体は、絶えず目標達成して行くと戦略が進化となり進化が戦略を生む正のスパイラルでハイレベルへと到達しやすい。

病院という組織は本来、機能体であるがそのライフサイクルの中で共同体化して、内部環境重視で競争のない、終身雇用に近い状態になれば突然変異は出てこないことは想像に難くない。そして退化、消滅して行くだけである。機能体は外的環境にさらされながら存続して行くので突然変異が生まれやすく、絶えず変革して行くことが予測される。

この両組織の差異を「個の情」対「組織の理」の対立事項から、「仲良し軍団」と「梁山泊軍団」に置換してみるとおもしろい。

テレビ番組の「カンブリア宮殿」に登場する弁当販売の玉子屋は700人の職員中、配達部隊200人で、朝注文を受け12時までに毎日7万食をオフィス街の5,000社へ届けている。配達部隊は21の班組織で構成され、班長にはメンバーの給料から車両の融通、営業戦略まで決定権を与えられている。12時までに弁当を配達するミッションを彼らに与え、その為には自分たちで考えるシステムを造っていった玉子屋はまさに機能体組織のトップランナーである。

さらに「組織はいつまで寿命があるのか？」という問いかけには、百年続く企業の条件分析によれば、「日本には創業百年以上の老舗は2万社あり、その強みは老舗のベンチャー精神」にあるという解があった。

機能体組織に通ずる innovation が百年企業の重要な key であると思われる。

老舗が多い業種は清酒製造業、酒小売、呉服・服地小売、旅館・ホテル等の順で、業績をみると、老舗企業の63.1%が年商3億円未満で、家族経営を脱し、エリアが全国的に展開されて来ている姿が浮かび上がってくる。

次に組織の中で言われていることは「職員満足度 ES 無くして顧客満足度 CS 無し」という命題である。組織の推進力という点ではまさにそのとおりで否定はできない。

共同体組織は職員の和を求めるので職員満足度が優先され、機能体組織では外部目的達成のため顧客満足度が優先される。しかし実際の組織ではある部門では共同体化が進み、他部門では機能体と mix した状態が多く見られる。

これらの関係をバランスよく取り入れた戦略マネジメントツールがバランススコアカード BSC である。

組織の事業計画を財務、顧客、業務（内部）、学習と成長という四つの視点で経営指標を活用し戦略テーマを決め、年度目標値のアクションプランを創り BSC が各部署で稼働していく。

坂の上にさらに坂が待っている時代の組織変革に必要なツールと思われ紹介しました。

(BSC については学会ホームページ <http://www.hbsc.jp/> をご参照下さい)



安心請け負い医

なかぞね和 内科
仲宗根 和則

クリニックの壁にフィリピン、ミンダナオ島の棚田の写真がかかっている。『天国への階段』といわれる棚田群は、そこに住む少数民族が神へのささげ物として作ったと言われている。人の手と足だけで、山頂を目指して一步一步と田を開いて2,000年以上もそれを維持してきた神の子たちの労苦に畏敬の念が湧き上がる。大いなる自然に感謝し、敬意、神の息吹を感じながら生きた人々だ。そこには人間の不断の努力の跡が刻まれ自然と一体化している。霧のかかる山頂へと続く棚田は、神（自然）と人間との良き関係を示すものだが、自然免疫に対する医者的心構えにも一脈通じるものがある。

医者の本分は、勿論病気を治すことに異論はない。しかし、治療の大部分は、患者の不安を取り除くことにあるのではないかとさえ思える。笑いが治癒を早め、不安の渦中にある患者の風邪がなかなか良くならないのは、日常の診療でよく経験するところである。患者の不安を取り除くということは、あまりにも平凡で、空気のように意識に上らないが、普遍的でありながら、実は医者への隠れた重要なミッションと思える。患者の頭上には、魑魅魍魎の類のあらゆる不安の暗雲が常に立ち込めている。ほとんどが杞憂であるこれらの不安が、患者の生活を支配していることが多い。『大丈夫。心配なくていいよ。』日に何度も繰り返される魔法の言葉。安心が治癒に向けての良い流れを作る。アドレナリンからカテコラミン、エンドルフィンへスイッチされる。血圧が下がり、よく眠れるようになる。食欲が回復する。身体の中で何かが動く。医師の仕事も、定期的に畦を補修し、棚田の水路を塞ぐ落ち葉や泥を取り除いて水路を整える作業に似ている。地味な仕事だが、怠

ると棚田は崩壊するのだ。水路が命の詩を奏でると、後は水と太陽と土が主役だ。黄金色に染まる一面の棚田が約束される。一粒の米さえ作れない人間は、安らぎの中で実りを待つ。人生のいい時間が流れる。

医者が前座を勤める頃に『神の手』は既に静かに起動している。悠然として速やかに、遅滞なく華麗に、動的平衡の収束へ振り子に戻す。真打ち『自然免疫』の登場である。身体の内部には人智を超えた抗原監視機構が張り巡らされ、捕捉は完璧だ。樹状細胞、抗体、白血球、リンパ球、サイトカインの実行部隊は厳選された超エリートとして、水も漏らさぬ配備を敷いている。レセプターにも狂いは無い。内分泌系、神経系も自然免疫という神のオーケストラでは欠かせない存在だ。悪役の細菌やウイルスさえ、黒子として重要な役割をもらっている。壮大な演奏の前後で、前庭を掃き清め、静謐を保つのが私のような内科医の役割。間違っても交響曲に不協和音（不安）を入れないようにしたいものだ。又人間の創造した科学に熱中するあまりに、大いなる流れに棹さず治療（薬や技術への過依存）をしていないか、耳をそばだてながら、自然治癒の鼓動に耳を傾けよう。棚田の民が神（自然）を敬い、それに従うように。

今日も難しい治療を受けた患者が、セカンドオピニオンを求めて駆け込んでくる。学術用語は饒舌なくせになかなか患者と視線を交わさないものだ。診断基準や治療指針は、患者には外国語で書かれたPC言語の響きに聞こえるようだ。説明を聞けば聞く程に、雲の上を歩くような覚束なさを感じるのだろう。人肌の温かさを求めてくるこのような場面こそ町医者の出番だ。学術用語の翻訳（意識）のエキスパートとして、又は自然免疫の語り部として不安の雲を払う。権威で飾られた数字に批判的な科学者の目を向け、パッチアダムスの心を理解する。時には事実よりも重い嘘もつける心理学者。『大丈夫。心配ないよ。』というヌチグスイの言葉を来る日も来る日も、何度も何度も繰り返す。プロフェッショナルの誇りをかけて。『安

心の請け負い医』としての職人芸に磨きがかかる。多年の人間観察（酒と読書）も無駄にはなるまい。起死回生のユーモアと比喩。錯覚する脳と哲学する筋肉も町医者好みの話題。無農薬野菜と囲碁。花と手芸。マクロレンズの世界。陽が射し込み、笑い声が逃げないそう広くない待合室。有り余る時間も大切な舞台装置。『そういうことだったの。ありがとう先生。』ホッとした患者の顔に紅が差す。小満の時間がゆっくり流れる。



空手部の頃

中山内科医院
中山 仁

最近、近い記憶は怪しくなる一方だが古い記憶は案外鮮明である。大学時代の話を書いてみたい、結構面白く読んでもらえるかと思う。

医大の寮に入って半月ほど過ぎたある夜、私の部屋のドアをバーンと乱暴に開けて巨漢が入ってきた。

「お前、相撲部に入れ！」といきなり甲高い声で命令する、肥満しているが目つきは鋭く威圧的だ。

「あの、相撲部に・・・僕がですか？」突然の事に当惑する私に「お前背はどんだけだ？身長だ！」と尋ねるので「173 くらいです」と答えた。

「体重は無さそうやな、まあいい、心配ない。入ったらどンドン肥らせてやるから大丈夫や」と勝手な事を言う。

非常にまずい状況である、このままでは強引に相撲部にされる、冗談じゃない、あんなフンドシ、いやマワシー丁で尻っぺたを人前にさらすなんて当時人一倍シャイだった私には恐怖でしかない。おまけに無理やり飯を詰めこまれ、肥らされるのだ。

困惑する頭に妙案が浮かんだ。

「あのう、実は・・・僕は沖縄の出身で・・・その、前から郷土の武道、空手を習いたいと思っているんで・・・相撲の方は、ちょっと・・・」としどろもどろに言うと、「そうか、わかった」と思いのほか簡単に納得して出て行った。

ほっとしたが、安心したのは早かった。

10分足らずで、部屋の外の廊下にばたばた足音がして、ここや、ここやと声がした。

ドアを開けて入ってきたのは、やたら肩幅の広いがっしりした男で金縁メガネ、角刈りの端正な顔をしていた。後ろに先程の巨漢もいる。

「お前か、空手部に入りたい言うとなのは？」
「あ、はい・・・」まさかだろ！私は焦った。

「わしゃあ、空手部の牛尾ちゅうもんじゃ、明日、5時に道場に来い。待ってるぞ。これから一緒ががんばろう」にかっと真っ白な歯を見せて笑うと出て行った。

こうして、子供の頃から運動音痴の私はなりゆきで空手部に入る破目になった。

まいったな、とは思ったが、何せ医大の空手部だ、知れてるだろうと高をくくる気持ちもあった。

結構ハードな日々が待っていた。

二人の先輩、相撲部の岡田さんと空手部の牛尾さんは強面なイメージで後輩に畏怖されていた。

私はたまたま不在だったある晩、寮の一年生全員が集められ、たるんでるといっているので二年生が制裁した事があった。

と言っても怪我するようなもんじゃなく猪木のビンタみたいなもんだから男ばかりの集団の通過儀礼で、上級生なめんなよ、こら！と言うだけの話である。

たるんでなくてもおなじだったろう。

空手は思いがけず私の性に合った。クラブ活動もしたことがない私だが真面目に稽古にはげんで、それなりに上達していった。

二年の終わりには関東学生空手選手権（医学部リーグではない）のメンバーに選ばれた。

国立武道館の大会場で我がチームは早稲田と

対戦したが、早稲田は船越義珍が最初に指導した大学で強豪として知られていた。

次峰の私の相手は少年剣士みたいな凛々しい顔だが、背は私より5,6センチは高く肩幅が広く手足が長い、こういうのはやりにくい。

懐が深く、長いリーチで間合いをとられたらどうしようもないのだ。

試合が始まってすぐ接近した途端、相手の上段突きが流れてカツンと私の顎に当たった。

寸止めルールではこれは反則だ、むかっとして睨むと、文句があるかという顔で睨みかえされた。

頭にきて、次の接触で水月に突きをぶちこむと、うっ、と声を出して顔をゆがめた。

「こら、双方注意！はなれて」審判が叱りつける。相手の顔は怒りで真っ赤であるが私もすっかり興奮していた。

それからは何が何やら、寸止めも何もあったもんじゃない、乱打戦になり審判は双方反則失格、引き分けと判定した。

田林監督に怒られているところに中背のがっしりした40半ばの人がやってきた。

年中不機嫌な顔の監督が最敬礼しているのをそばで見たら、私に向き直り「君、中山くん、元気があっていいぞ。医者になるのはおしいなあ」と笑って肩を叩いた。全空連のコーチの高田さんだとその後先輩が教えてくれた。

それから三年、空手部を退部した私はアパートでテレビを見ていた。「全日本ライト級1位、中村***」リングアナウンサーに紹介されてコーナーで片手をあげたのは早稲田のあいつであった。

寸止めルールのフラストレーションから解放された中村くんは、今は少年ぼさも抜けた精悍な顔で思う存分殴ったり蹴ったりしていた。



哀愁のパナリ

仲原漢方クリニック
仲原 靖夫

『哀愁のパナリ』は竹富町新城上地出身の写真家、故大浜博吉氏の作品で、パナリ島をモチーフにした航空写真である。往時の活気が失われた島を見て、思い出と郷愁が抑えられなかった哀しみを共有できる。新城島パナリは上地、下地の二島がさんご礁のリーフで繋がり干潮時歩いて渡れる。上地は辛うじて島人が住み続け、現在に至るが、下地は昭和37年最後の三所帯が島を出て廃村になった。その後、企業が牧場を経営し、管理人が下地の島民となった。リゾート施設も運営されたいが、今はその廃屋が残る。

今年廃村から50年に当たる節目の年で、島に対する思い入れの深い闘病中のM氏の呼び掛けで下地島訪問が企画された。

私は下地島で昭和25年に生まれた。島の中学校が廃校になった昭和29年前後に子供を持つ家族は次々と島を出て、対岸の西表島の大原や石垣市に移って行った。一緒に遊ぶ子供が一人ずついなくなり、最後に残ったのは私だけとなった。その私も5歳の頃、幼稚園へ入園を機に、祖母と二人の暮らしの島を離れ、石垣島の母のもとに移った。

幼かったにもかかわらず島の暮らしの記憶がなぜか鮮明に残っている。野原や山でグアバや野葡萄をとって食べたこと、豊年祭でアカマタ、クロマタが非常に怖かったこと、豊年祭（プル）の前日に祖母が司を務める西御嶽（イルワン）に泊まり込んだこと、アカマタのまねをして遊んだこと、小学校の低い鉄棒でも高く手が届かなかったこと、島には紙がないのでトイレトペーパーの代りはユウナなどのやわらかくて大きい木の葉であったこと、年中枯れることのない雨水の井戸があり非常に深かったこと、ア

ダンの気根を割いて乾かし、細い繊維（アダナス）にして綱をない、いろいろな用具が作られたこと、蘇鉄の実の食料への加工等々限りなく思い出される。最後の記憶は村の道を一人で三輪車に乗っていたことである。

そんな思い出の島に久しぶりに島の出身者で渡ることになった。梅雨空の5月20日のことである。当日雨は降っていないものの曇り空で、約20名が集まり、午前8時20分に石垣の新栄漁港を高速船で出発した。約40分で島に着いたが、小さいころの記憶ではエンジン付きのサバニで山から谷に滑り下りるように波にもまれて、四、五時間かかった。今では島に栈橋もでき、牧場の自動車が通る道を通して島の部落あとに向かった。島の中に入ってすぐ右手の林の中に東御嶽（アールワン）の跡がある。豊年祭（プル）でアカマタ・クロマタが舞を奉納する島の中心となる拝所である。さらに道のない疎林の中を進むと鉄棒のコンクリートのポールのたった学校跡に出た。そこにリゾート施設の廃屋があり、滞在拠点にした。村跡の中心にはプルに関連した拝所『神宿り』（カンヤドゥル）があり、そこを訪れた頃雨が降り出した。今度の目的の一つは『中盛』（ナハムル）と呼ばれる火番守跡を訪れることであった。雨の中を島の中央に向かって歩いた。途中から牧草地の有刺鉄線を何度もくぐりながら進む。島の中央は次第に標高が高くなり、中盛が最も高く標高27メートル（地図では20.5メートル）。そこに3メートルほどのらせん状の石積がある。その上に登り、島の周囲を見渡すと海を隔てて西表島、由布島、小浜島、上地島、黒島、その向こうに石垣島のオモト岳も見える。天気が良ければ南に波照間島、西に仲御神島も見えるという。その見晴らしのよさを子供の頃の記憶と重ね合わせて確認できた。さらに牧草地を西に横切って道なき道を500メートルほど歩く。次の訪問先は西御嶽（イルワン）である。傘をさし雨に濡れ、足腰の衰えを感じながらやっとなった。元は瓦屋根のついた拝所であったが、今は四隅のセメント壁と正面の突き当りに、ご神

体ともいべき珊瑚石灰石が素朴な神聖さを残していた。

更に雨の中を部落に戻るように1キロほど東に歩く。途中に『中山』（ナハヤマ）というプルの行事の場所と、『ななぞう御嶽』（ナナゾウガン）というザン（ジュゴン）を祭った拝所がある。首里王府時代ジュゴンの肉は米の取れない新城島の上納品で、『御膳本草』によると強壯の効能があるという。以前は肉を取った後のジュゴンの骨が山と積まれてあったそうだが、現在は一つも残っていない。雨の中をやっと部落跡に戻って昼食をとる。

島にもどると子供の頃の記憶と現在の空間のずれを感じる。身長と体力の違いにより、ある場所の距離が近かったり、高かったものが案外低かったりする奇妙な感覚である。

食事が一段落すると島最大の行事の豊年祭（プル）の歌がCDで流される。太鼓の拍子だけの素朴な歌の中に島の暮らしの原動力を感じる。小さな島で一生を終えた先祖の方々にとって島の空間が世界のすべてであり、豊年祭の行事の中に共同体のすべて、生きがい、人生の価値、美意識など文化のすべてが集約されていたと、先輩方の島に対する思いに触れるたびに痛感する。



写真：『哀愁のパナリ』
手前の丸い島が下地、リーフで繋がった細長い島が上地で
その向こうに黒島、水平線の山は石垣島



幼児用ハーネスのすすめ

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
小嶺 幸弘

私は神経内科医なので子供は診ませんが、当院待合で図の子達を見ました。子の背中にあるものは、欧米では多く見られる幼児用ハーネスです。医療器具ではなく育児用品に過ぎないので、整形外科や小児科でも知らない人がいても不思議ではないですが、これにまつわる思い出を紹介します。

医師2年目研修を神戸市の中央市民病院で受けました。現今の充実した指導と異なり、救急は綱渡りでした。例えば、発熱・腹痛の中年男性に紅斑があり、バラ疹と考え調べて抗生剤クロマイセチン投与し、翌日、腸チフスは稀なので年配の内科部長に怒られました。しかし、その後で腸チフス菌の保因者と判明しました。これはビギナズ・ラックでしたが、ある日、その部長に鳥取に近い田舎の民間病院に1週間行くよう言われました。院長病気のための代診でした。当時1年目でも「アルバイト」で1人当直もしていたとはいえ、今考えれば超法規的措置でした。

そこに2歳前の子が連れてこられました。まだ話せず診察指示にも全く応えないのです。肘の脱臼疑いで動かすと痛がるどころか顔色一つ変えません。大丈夫として帰しましたが、他院で整復したと、2回目の派遣の時に聞きました。

整形外科講義では専門医しか使わない骨切術などたくさん習いましたが、大学の講義ノートを見直しても、肘の整復は習った覚えがありません。1970年代、大学の講義は実践的でなかったのです。この話を聞いた熟達の外科医松本廣嗣先生（県立八重山病院長）はさすがに違います。この場合、子を後ろから支えて、子が抱っこを求めて親に手を伸ばす位置に置くのだそうです。もちろん、手を伸ばせば正常です。

歳月は流れ、妻の祈りがかない、我が家にもヨチヨチ歩きの子ができました。幼児からすれば、歩くのも精一杯なのに、片手を親に取られると自然な腕振りができずバランスが悪いのです。つまずくと簡単に引手を垂脱臼します。先の経験から、妻にハーネス作成を頼みましたが、彼女と初めて会ったのが整形外科病棟であったにもかかわらず、元看護師の彼女はあえなく拒否。少し恥ずかしかったのですが、私が手芸店を巡ってパラシュート隊員風のハーネスを作りました。これはとても良く、子がよろける瞬間、上に引くだけで転倒防止できました。しかし、この使用を拒んだ妻が、2回、子の肘を脱臼させ医院で整復してもらったと後日分かりました。いつの時代も正論が受け入れられるとは限らないものです。

ハーネスを使用すると、子は両手が自由に使える腕振りも自然なので転倒も減り、もし、つまずいても肘の脱臼が防止できます。既製品もありますが、幼児用のベストがあれば後襟近くにループを縫い付け、そこに脱着できる紐をつけるだけで良いでしょう。多くの母親がハーネスの使用に目覚めてほしいです。コータ君、リョウマ君、君たちのおかあさんは偉い！





紀行文

浦西医院
仲間 清太郎

3年前に、5月の連休に我が故郷一宮古島の北に位置する八重干瀬・大神島・ガラスポートで池間島周囲のさんご礁を見てきました。八重干瀬は池間島の北約5～22kmに位置し、南北17km、東西約6.5kmにわたって広がる広大なさんご礁群であります。100以上のさんご礁からなり、その面積は宮古島の3分の1に達するといわれています。名称の由来は、諸説があるようですが、8つの干瀬からなる・干瀬が幾重にも重なっているからのようです。名前は地域によって「やえびし」「やびじ」「やびし」と呼ばれていますが、一般的には「やびじ」と呼ばれているようです。1年でもっとも潮差が最大になる旧暦の3月3日に「幻の大陸」をキャッチフレーズに八重干瀬祭り一観光ツアーが行なわれています。私たちは、池間島で個人的に観光ツアーをしているKさんをお願いして、職員8名のメンバーで、まず干潮になる2時間前に、池間大橋と大神島間のさんご礁をまずガラスポートで観察に行きました。こんなにきれいな何種類ものサンゴが群生しているのを船頭のKさんに説明を受け、地元の私でもビックリする程きれいなサンゴでした。宮古のサンゴの綺麗さは沖縄一で、ダイビングやシュノーケルをする人に人気があるようです。サンゴは体の中に共生している褐虫藻と呼ばれる単細胞(大きさは10ミクロン)の植物が行なう光合成でできた脂質・炭水化物などを主たる栄養分としているようです。また、褐虫藻の光合成は、サンゴの骨格を作ったり、サンゴ礁が作られることにも役立っているといわれています。さて船を乗り換えて、いよいよ八重干瀬へ出発です。約25分かけて近くの大目目のリーフへ到着です。5月の連休では、潮が満ちてくるのは早く、

近くのリーフに上陸して約2時間程度の潮干狩りしか出来ませんでした。しかし結構サザエ・タコ・シャコガイ・リーフ間でつれた魚等たくさんの海の幸が取れました。特にサザエは多く取れました。サザエは波打ち際のところで下から上がってきてサンゴの中に隠れており、集中してみないと見逃してしまう。ただ、砂地での潮干狩りはよいが、さんご礁の上を歩いて、珊瑚を踏み潰すことがあり、申し訳ない気持ちになってしまいます。約2時間の潮干狩りが終了し、今度は池間島の近くで、グルクン釣りで。船頭が準備した、さびきでグルクン釣りの開始。4人で左右二人ずつ分かれ釣りが始まりました。釣り始めて10分経過すると、丁度群れにあたったか、入れ食いの状態です。100匹も釣れば、もう釣りは終了。後でさばくのが大変だと思っていたら、船頭のKさんが釣りの途中からグルクンのさばき。慣れたもので、あっという間に全部のグルクンをさばいてしまいました。これで、その日の予定は終了。今回は全員、私の実家で2泊3日の予定で来ましたので、皆で分担し、夕食の準備へ。サザエの刺身・つぼ焼き、グルクンの刺身・から揚げ・煮つけ、シャコガイの刺身、タコの刺身等、泡盛の古酒を飲みながら、もう最高です。カラオケはないが皆で、遅くまでドンちゃん騒ぎです。適当に皆さんお休みです。翌日は、私も初めていく大神島です。池間漁港から約15分の位置にあり、周囲は約2kmの小島です。過疎化が進み、現在は50名満たない島民が、半農半漁の生活を営んでいます。以前から、大神島の話は聞いておりました。①大神島と海賊キッドの財宝：実際財宝は見つかっていません。②幻の大神島一周道路：20年以上前に計画されたようですが、ブルドーザーの爪が折れたり、工事関係者が原因不明の病気になったりで中断されたまま。③大神島のうわさ話：以前海賊がやってきて、島民のほとんどが殺され、隠れていた男女の子供だけが生き残って、その子孫が現在の島民の子孫である。この島は、古くから神の島とされてきました。現在も集落以外の多くの場所は聖域



とされ立ち入り禁止です。このような予備知識があったので、今回は展望台一遠見台（トウンバラ）まで上がったらず、寄り道しないでそのまま下りることにしました。もちろん、何か植物でも持ち帰りはできません。漁港に到着すると、トイレ・自動販売機・休憩所がありました。上りの道路を上がっていくと民家がありました。洗濯物は干されていて引き戸も開いていたが、午後2:00頃で昼寝の時間なのか？不思議と帰るまで誰一人とも会わなかったです。さて、遠見台まで、約15分かかり全員到着です。周囲の景色は抜群で、また大神島からみる池間島・池間大橋、周辺の海のさんご礁の景色も本当に最高です。改めて、我が島一宮古島のすばらしさを見直すきっかけになりました。皆さんも、一度八重干瀬・池間島・大神島観光はいかがでしょう？（一部ネットから文献引用させていただきました）

カンス風景の様であったが、ふと面白いことに気づいた。夫婦の座る位置である。50歳代以降では向かって右に夫人、左に婦人であり、30歳代前では逆なのである。家庭内での地位を反映しているのか、私には夫が勝手に尻にひかれたがって見えるから、私の頭は古い。

話を戻そう、沖縄北部のドライブコースは本部半島を一周するものだ。今やIT時代、Google地図でルート・乗換案内を選択して、設定は車にし、目的地Aにブセナ→Bに美ら海水族館を書き入れ、次に目的地を追加してC備瀬のフクギ並木→D今帰仁城跡→E古宇利大橋→F嵐山展望台→Gブセナにすると立ちどころにドライブマップが出来上がった（図1）。走行距離89.4km、所要時間約3時間と表示された。

最初に向かったところは定番の美ら海水族館。何度行っても巨大水層の中を悠々と泳ぐジンベエザメ、マンタをみると心がなごむ。十分に水族館を堪能したら、ほどよく正午になり、備瀬の部落内にあるカフェチャハヤ・プランへ到着した。水族館から備瀬まで10分足らずで行ける、備瀬のフクギ並木はブログなどで旅好き仲間のおすすめ観光スポットである。屋敷周りの防風林として用いたフクギは静かな集落の中で青い空と海にまけないほど深緑に繁茂して並木をつくり、木漏れ日の中を散策すると南国情緒漂う、ゆったりとした時間の流れを感じずる異次元の世界である。カフェチャハヤ・プランはいつも混み合うらしい、電話予約をとって正解であった。伊江島をバックにエメラルドグリーンの海を眺めながら、昼食はラフテー丼、アジアンそば、中華風鶏粥の3つから1つ、飲み物とセットで選ぶのだが、どれも美味しい。

ゆっくりと散策を楽しんだので時間が足らず、今帰仁城跡へ行くのは止め、一路車を古宇利大橋へ向け走らせた。途中に為朝伝説のある運天港や今帰仁仲原馬場（リュウキュウマツ並木）があり、昔の栄華が偲ばれた。私のカーナビには無かったが、Googleマップで本部半島と屋我地島を結ぶ橋が開通しているのではない



沖縄北部のドライブコース

仲本内科
仲本 昌一

今年3月に大学時代の友人3人が夫婦で揃って沖縄にやって来た。論語にある「朋あり遠方より来たる。亦楽しいからずや」の如く、共に2泊3日の沖縄北部を旅行した。朋友を歓待するにあたり、練り上げた本島北部のドライブコースをご紹介したい。

出発はザ・ブセナテラスから始めた。なぜなら、卒業して33年も経つと体力、気力共に若い時のようにはいかず、くつろいだ、ちょっと贅沢な旅をしたくなるものだ。ホテルに到着して案内されたオーシャンビュールームはテラスからコバルトブルーの海が臨め、旅の疲れを癒してくれた。翌朝、海辺にある屋外テラスで朝食を取る。まるで洋画でみた地中海あたりのパ



図1

か？平成22年12月に完成したアーチ型ワルミ大橋である。橋から見下ろす羽地内海は絶景であり、新たな名所を発見した思いであった。ワルミの語源であるが、[割れ目]のことで、方言で発音すると[割れ]→[ワリい]、[目]→[ミ]と発音する。それがつまり[ワルミ]になったようで、羽地内海の北側で羽地内海と東シナ海とをつなぐ海峡または水路であり、ワルミ海峡やワルミ水路、運天水道と呼ばれる。屋我地島を北上しサトウキビ畑を抜けたところで、目前に青い海が広がり、真ん中に古宇利島へと続く、通行料無料の一般道としては日本最長の大橋が見えて来た。橋は海面からそう高くなく、海原を走る感じで、両脇の海の色がエメラルドからコバルトへとグラデーションがなんとも言えず綺麗であった。全日空のポスターにもなったそうで、多くの観光客で賑わっていた。

帰りは沖縄の松島と言われる羽地内海を車窓左に眺めながら海岸沿いを下り、嵐山展望台へ向かった。流石に観光客にはあまり知られてなく、地元の消防隊員の夫婦1組だけであった。展望台から羽地内海を一瞬に俯瞰でき、湖のように穏やかな海に大小の島々が入り組んで点在する様は沖縄の瀬戸内海と言われ、私が思うに海の色は沖縄が勝るので日本三景の松島よりも素晴らしいのではないだろうか。その絶景を目

に焼き付け、夕暮れ時のブセナの浜辺と酒を酌み交わし旧交を温めるべく2日目の夕食会を楽しみにホテルへ急いだ。



沖縄に来て18年

野村ハートクリニック
野村 秀樹

随筆を書くように県医師会から依頼がありました。しかし、最近楽しいことがあまりなく、頭に思いつくことは、愚痴っぽい内容ばかりで皆様の興味をひくような面白い事はなかなか書けそうにないので困っていました。しかしせっかくのご指名ですので沖縄に来る前からずっとしているのでダイビングについて書くことにします。

沖縄の海に憧れて、神戸市から沖縄に移住して18年経ちました。

沖縄第一病院に就職し、週休2日で仕事をさせてもらいました。週末は毎週、離島へダイビングに遊びに行きました。また、冬の寒い時期には、ダイビングは楽しめませんのでジェットスキーとエンジンつきサーフボードを購入し、南部の大度海岸で遊んでいました。患者様のことばかりを考えている先生方から見るととんでもない医者に見えるかもしれません。

最初は、ケラマの海から始まって、久米島、伊江島、粟国島、伊是名島、伊平屋島、石垣島、石垣の離島の西表島、与那国島に行きました。それを毎年、必ず1回以上は行くようにしていました。毎年シーズンになると、今年はどのようなスケジュールで潜りに行くか色々考えるのも楽しかったです。

沖縄に来た当初は、沖縄のどこの海も新鮮で、綺麗なためとても楽しかったです。

ダイビング自体も面白かったのですが、それだけではなくダイビングインストラクターの人柄

が皆とてもユニークで楽しい話が途切れることはなかったです。そのため、ダイビングの後の酒盛りなどととても楽しかったように思います。しかし、年が経つとしゃべることも毎年同じようなので次第にマンネリ化してあまり楽しくなくなってきました。話す相手は変わっても、同じ内容を話さなければいけないし、あまり変わりばえのしない話を聞かされるのも苦痛で、眠たくなってしまいます。そのため、最近ダイビングの後の酒盛りをほとんど参加していません。また、サンゴの白化現象、オニヒトデの大量発生、赤土の流出で、サンゴの群生するエリアは激減し、海の中の景観もすっかり変わりはててしまいました。海に入るだけで、気持ちが良いということはなくなっていました。那覇市から近い、チービシの海も一面のサンゴ礁が広がっていましたが、今では全くその面影はありません。最近まで残っていた石垣島の北部の海のサンゴ礁もオニヒトデに食い尽くされてしまいました。また、魚も数も減ってしまいましたし、魚の大きさも群の大きさも小さくなってしまいました。更に、安全を重視するようになったダイビングのショップが多く、私が好むスリリングなダイビングをしなくなりました。例えば、与那国島の西埼のポイントでは、点在する海の中の根（海の中の小高い丘）を早い潮の流れに乗って順番に見に行きます。巨大な根の近くには魚がたくさん群れています。魚が逃げないように息をひそめて見に行くのはワクワクしますし、根の回りは潮の流れも複雑で引き込まれたり、吹き上げられたり、とてもドキドキしますが、危ないこともあるので経験の浅い人が多い最近では行かなくなりました。もう一つの私の好きなダイビングポイントは、西表島から行く仲御神島で、西表島の南西にある無人島です。その近くに大きな根が複数あります。その根の周囲は、潮の流れが早く大きなマグロやアジの群れが見られるダイナミックなダイビングポイントですが、アクセスは西表島から遠く、更に波が高くなると近づけないのと、このポイントも上級者向けであるのでなかなか

行ってくれないポイントです。しかし、春にはカスマアジが、数千匹も群れるそうです。実は、私もそのような光景は見た事ありませんが、ダイビングインストラクターの話だけ聞かされ、実際には見に行けないのはストレスが溜まります。それとは反対に最近のダイビングの傾向は、あまり移動せずに小さい珍しい魚を探したり水中写真を撮るダイバーが多くなり、私の好むダイビングではないのでつまらないことが多いです。その他にもいろんなことがあります。以前よりはダイビングに対してあまり魅力を感じられなくなりました。それでも毎年4月になると休日にはせっせと海に通っています。今年はダイビングが、以前と同じように楽しいものにならないか考えてみました。それには何か新しいことを始めようと考えています。嘉手納町のダイビングショップに、軍隊が使うような水中スクーターをレンタルしてくれるショップがあります。自分の足で泳ぐより格段に早いスピードで移動できますし、移動距離もとても長くなります。今までとは全く別のスピード感溢れるダイビングが味わえそうです。そして、ダイビングの仲間を作ってアフターダイビングを楽しもうと考えています。しかし、このような変則なダイビングと一緒にやってくれる人がいるのでしょうか。医師会の先生方で、同じダイビングの趣味をもっている方で、潮の流れの早い海が好きな先生ぜひご連絡ください。



初めての海外旅行
ナイアガラ〜トロントへの旅

中村内科胃腸科 院長
中村 博

医者になって20数年休みが取れなかったわけではなく、機会がなかったわけでもないが、気が付けばこの歳で初めての海外旅行である。パスポートを使うのは復帰前に本土へ行った時



以来で、井の中の蛙大海を知らず状態で、いささか恥ずかしい思いでこの文章を書いている。今回、旅行先がカナダになったのは、娘がトロントへ留学中と言うこともあり、様子もみながら出かけてみては、と言う周りからのすすめもあり、家内と共に出かける事となったからである。行く事に決めたものの、海外ビキナーにとっては勝手もわからず、インターネットや旅行本を通しての下調べから始まり、手順のわかる初めての海外旅行本やら、CD付の英会話本等、今や自分の子供達でさえ、海外へ修学旅行へ出かける時代に、恥ずかしい思いで本を購入し、準備に取りかかった。その日以降、毎日の通勤の往復は、音楽CDから英会話CDへと代わり、昼休みは旅行本やインターネットでの情報検索と、期待と不安の中、着々と準備をととのえ、いざ出発！

最初に訪れたナイアガラの滝はカナダのオンタリオ州とアメリカのニューヨーク州の国境にあり、カナダ滝とアメリカ滝から成る。南米のイグアスの滝、アフリカのビクトリアの滝と並んで、世界3大瀑布のひとつである。語源については、諸説あるらしいが、かつてこの地に暮らしたインディアンが呼んでいた、ニアガル(雷轟く水)が広く信じられているようだが、実際その場に立ってみると、大自然の雄大さ、スケールの大きさを肌で感じ、まさに雷鳴にふさわしく百聞は一見にしかずの心境であった。先住民が何百年も前にこの光景を目にしたら、天変地異でも起こらんかのごとくであったに違いない。イグアスの滝やビクトリアの滝も見てみたいと思うのは自分だけだろうか？カナダ側からの観光の後、レインボーブリッジを渡って対岸のアメリカ側へと徒歩にての国境越えは、海外が異国、国境という感覚の島国育ちとしては、何かしら不思議な感動を覚えた。

次に訪れたのが、今回の旅の本来の目的である、娘のいるトロントであるが、ナイアガラからトロントへ移動する途中、オンタリオ湖の上を走るハイウェイの車窓より、エリー湖へとつながるウェランド運河の水門をみる事が出来

た。元々、ナイアガラ川を通してつながっているものの、ナイアガラの滝で50mの落差があり、実際エリー湖とオンタリオ湖は100mの標高差があり、五大湖中オンタリオ湖だけが他の湖との船の往来が出来ず、発展が遅れたそうだが、運河の開通により発展していったという。全長43kmの間に8個の水門(閘門式)を使って水位を調整し、万トン級の大型船も通過するらしい。今回は残念ながら運河を通っていく船をみることは出来なかった。またハイウェイ移動中、その車線数もさることながら平行して走る線路をすれ違う貨物列車は踏切が30分は開かないという。いったい何両編成だろうか、すべてビッグサイズだ。トロントはカナダ最大の都市であり、オンタリオ州の州都でもあるが、様々な民族が生活する多民族文化を持ち合わせた街である。トロントで暮らす移民の数は人口の約半数を占めるという。トロントの地名は、先住民ヒューロン族の言葉で、「人の集まる場所」トロンテンに由来するらしい。確かに街を行きかう人々や、ダウンタウンのいろんな街並みを見てみると、多民族文化をもつ、移民の多い、人種のるつぼ的な街のイメージには納得するところである。また、首都オタワがカナダの政治の中心であるのに対してトロントはカナダのウォール街とも呼ばれ、カナダ経済の中心地で、市内ユニオン駅前に並ぶ摩天楼はカナダ国内外の銀行や証券会社の高層ビル群で、ひときわ目立つ金色のビルはロイヤルバンクプラザビルで本物の金も使われているらしい。また、昼間の景色とはいっぺんし、ホテルの窓越しに見える、光輝く摩天楼の夜景にも感動した。今回の旅を通して、自分の語学力に対しては、きびしさを痛感したのは言うまでもないが、海外の経験豊富な会員諸先生方には、珍道中を想像されたかもしれませんが、結果としては、案ずるより産むが易しの旅となった。今回、娘のカナダ留学をきっかけに実現したカナダ旅行であったが、カナダでの留学生生活をエンジョイしている娘に安心するも、トロント生活にとけこんで、このまま、沖縄に帰らないと言い出したらどう



しよう、外人のボーイフレンドを紹介されたらどうしようとか、いらん心配を土産にしての帰国となった。また帰国便の遅延にて沖縄便への乗り継ぎが出来ず、成田で予想外の一泊をするというおまけまでついた旅行となった。

これからは、この旅行をきっかけに取得した10年旅券をフルに使えるよう機会を見つけては出かけたいためである。



手前がアメリカ滝、奥がカナダ滝



『真夏のオリオン』に
想いを馳せて

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
心臓血管外科部長 久貝 忠男

2011年12月に宮古地区医師会から「沖縄県宮古島医療史」が上梓され、小生も宮古病院勤務の経験があることや宮古に生を受けた一人として、一冊贈呈していただいた。日頃から懇意にしている先生方をはじめ、失礼ながら名前しか知らない大先輩など宮古圏域の医療を支えてきた先人たちの詳細な人物像が紹介されている。久貝恵治氏もその一人である。彼は小生の祖父の兄弟の子ども、すなわち、父の従兄弟にあたる。面識はないが、大学生の頃、よく話を聞かされていたため多少の親近感をもっていった。「五十にして天命を知る」。天命・運命と大袈裟なことは言わないが、齢50歳を過ぎた頃


から、自分史に興味をもつようになった。それ故、門中で、同じ医師でもある久貝恵治氏に自然に興味を持った。そして思いもよらぬ事実遭遇した。小生は「玉手箱」を開けたのか、それとも「パンドラの箱」だろうか。久貝恵治氏は第二次大戦末期の日本海軍第6艦隊の「伊号第58潜水艦」で軍医長を務めていた。「伊号第58」は「回天」6基を搭載する大型の潜水艦であった。1945年（昭和20年）7月29日、敗戦濃厚の日本海軍において、グアム島-レイテ島間の南西太平洋海域でアメリカの重巡洋艦「インディアナポリス」を雷撃、撃沈し、戦史に名を残すことになる。実はこの撃沈された「インディアナポリス」は広島・長崎に投下された原子爆弾をテニアン島に輸送した後に、レイテ島に移動中であった。この太平洋戦争最後の大型艦船撃沈事件は池上司氏により『雷撃深度19.5』として斬新に再構築され、迫真の海洋戦争小説として生まれ変わった。と言っても多くの方々には別段取り立てるものでもないと思われるが、『真夏のオリオン』（東宝）と云えば興味をもっていただけるのではないだろうか。『真夏のオリオン』は2009年6月13日に公開された玉木宏と北川景子の主演映画で、「U・ボート」や「レッド・オクトーバーを追え」などに匹敵する潜水艦サスペンスの傑作である。この映画の原作が『雷撃深度19.5』である。映画では坪田誠軍医長として登場し、平岡祐太が演じている。そう、久貝恵治その人である。医師が主人公ではないので、出番は少ないが、恵治氏を重ねながら小説を読み、映画を鑑賞した。映画は原作と異なり、かなり脚色されて元潜水艦々長に恋人があてた1枚の楽譜から物語が始まる。“オリオンよ、愛する人を導いて下さい。帰り道を見失うことがないように”。男女の純真な恋心と無事帰還を祈る揺れる気持ちが日米の艦艇同士の最後の戦闘の中で展開されていく。一方で、久貝恵治氏を含め、多くの乗員が兵站を絶たれ、暗い潜水艦の中で孤軍奮闘する姿はせつなく想像を絶するものである。久貝恵治氏は1937年に旧制宮古中学を卒業後、旧制



七高（現 鹿児島大学）を経て、長崎医科大（現長崎大学医学部）を卒業した。以来、宮古島に帰ることはなく、戦後は外科医として佐世保市内の複数の病院に勤務後、「久貝医院」を開業した。昼夜を問わず診察し、裏表のない実直な人柄で住民に親しまれたらしい。1992年に72歳で亡くなられたが、無類の読書好きであったらしく、コレクションされた蔵書は約1,400冊に余った。

氏の死後、佐世保市の柚木支所に寄贈され、「久貝文庫」して現在も閲覧されている。小生も外科医（心臓外科）を志し、読書好きな点は同じDNAかもしれない。映画の題名となった「オリオン」は海神ポセイドンの息子で、狩人であった。「オリオン座」は冬の代表的な星座で、知らない人はいないと思われる。特に沖縄県には地元のビールがあるので馴染みが深い。ギリシャ神話では「オリオン」はサソリに足を刺されて死んだため、夏の夜空に現れる大サソリを恐れて冬に姿を現すのだというが、実は夏にもこっそりと姿を見せている。さそり座が西に沈んでから、おずおずと東の空から昇ってくる。しかし、夏は太陽がちょうど「オリオン座」と同じ方向にあるため、見つけることはかなり困難である。少ないチャンスではあるが、8月中旬の夜明け前なら、東の地平線からオリオン座が昇ってくるのを見つけることができるらしい。明け方のグラデーションの中に見える「オリオン座」はとても感動的な美しさのようだ。この真夏の空に輝く「オリオン座」を見つけたことは船乗りたちにとって、吉兆をもたらすと

信じてられていた。「真夏のオリオン」は満身創痍の「伊号第58潜水艦」の乗員にとって、“帰り道を見失うことがないよう愛する人のもとへ導く”幸運の“三ツ星”であったことだろう。そして、もし「伊号第58」が「インディアナポリス」をテニアン島に着く前に撃沈していれば、広島・長崎への原子投下はなかったかもしれない。私はそんな「歴史のもし」と久貝恵治氏に思いを馳せて、今年の夏は「真夏のオリオン」を捜してみたい。



**本当に為せば
成るのだろうか？**

北部地区医師会病院 内分泌代謝科
長澤 慶尚

うえずぎはるのり
上杉治憲は江戸中期出羽国米沢藩の第九代藩主である。他に例がない程に人口に占める家臣の数が多く（公務員が多い理由は決して最近のギリシャの様な事情ではなく、藩の禄高が減り収入に限られる様になりながらも、初代藩主以来の家臣達を決してリストラする事が無かった為らしい）、領地返上寸前に迄陥った深刻な米沢藩財政の再生のきっかけを作り、江戸屈指の名君として語り継がれている。

藩主隠居後の号である鷹山の方が著名であるが、直江兼統の教えを手本に、藩政改革に示したリーダーシップを賞賛し、殊にバブル崩壊後の現代日本では、『有るべき経営者の姿』として耳目を集め、時には「天明の大飢饉に於いて餓死者が藩内から一人も出なかった」等という風評の如く、明らかに誇張された喧伝も有るが、以下の一文等は皆どこかで目にした事が有るのではないだろうか。

「生せは生る 成さぬは生らぬ 何事も 生らぬは人の 生さぬ生けり」



これは武田信玄の名言「為せば成る、為さねば成らぬ。成る業を成らぬと捨つる人のはかなさ」を模範として和歌に詠んだものとされている。勿論それ自体が元を辿ると中国の歴史書『書経』の一節である「弗爲胡成」（為さずんばなんぞ成らん）に由来するらしい。

『生ず』と『為す』の差等、微妙な語彙の違いも有るのだろうが、信玄が「工夫して苦勞を重ねても、そうして頑張ればちゃんと上手く行く道が拓けるのに、その探す努力を尽さずに、上手くいかないから放置してしまう人の儂さ」を憂えているのに対して、基本的に鷹山の言い換えは部下に対する戒めとしての性格が強い文章の様で、その中には「上手く行かんのは、お前がきちんとやっとならからぢゃい。」と言うイメージが感じられてならない。

この文章を発する主体が「誰か？」に依っても勿論意味合いが異なり、私は何もこの一文を座右の銘として自らを律して居られる諸兄を批判するつもり等毛頭ない。自分の心の内でこう思うのならそれは素晴らしいと寧ろ思うが、全国の自治体首長の尊敬するリーダー第一位として名が挙がるとなると（2007年版；そもそもこんなアンケートをとる読賣新聞の見識を疑うが）、この言葉にはリーダーに成りきれていない無能な上司が部下に責任を転嫁して発する傲慢さも見て取れるのである（不遜な解釈であると御批判を頂くのは致し方ないですが、少なくともこの言葉を研修医が心に秘めても構わないが、指導医が披瀝するのは適切でないと思っます）。

そんな事を考えていた矢先に、某国内自動車メーカーのCMをネットの動画配信で目にした。本田宗一郎と言う創業者が一代で築き上げ、モータースポーツ界では勇名を馳せているこの会社も、近年の構造不況の中で必ずしも順風満帆ではないと言う。

『負けるもんか（プロダクト）篇』と名付けられたその60秒間はカット無し一発撮りで創

世記のA型原動機付自転車から最新のNSXコンセプトに至る迄の「名車」達を経時的に淡々と移し続けるもので、そこにナレーションがオーバーラップする。面白い表現だったので紹介してみたい。

「頑張っていればいつか報われる、持ち続ければ夢は叶う！」
そんなのは幻想だ。

大抵努力は報われない、大抵正義は勝てやしない。

大抵、夢は叶わない。

そんなこと現実の世の中ではよくある事だ。

けれど、それがどうした？ スタートはそこからだ。

新しいことをやれば、必ずしくじる。腹が立つ。

だから、寝る時間・食う時間を惜しんで何度でもやる。

さあ、昨日までの自分を超えろ。

CMと言う形で公表されては居るが実は地上波・衛星放送で実際に目にした事はないし、その内容はユーザーに対しての宣伝と言うよりも、不況の中で不透明な先行きに不安を抱えている自社の従業員に対しての鼓舞・叱咤のメッセージの様には有る。

個人的には学生時代の原付バイク以外にはこの会社の製品を購入した事が無いので、余り思い入れもないのだが、You tubeで配信されたこのCMに対して絶賛するものから非難するもの迄様々な反応があった点がちょっと興味をそられた。

「第二次大戦後に我が国が再興する力となった『もの作り』のスピリットが失われつつ有る現代に向けた熱き思い」等と言われればアナクロに過ぎるし、こういった言葉はいつか来歴も原点も判らないまま一人歩きしていきだろう。先人の名言程には未だ洗練されてい

ないし、起承と転結の間の論理的な飛躍・乖離が気にも成る。

だからこの文章も実は人に向けて言うべき言葉ではないのだろうと思う。ただし心の中で、自分に問いかけるにはちょっと良いかも知れない。少なくとも自分の心が折れそうな時、実は心が疲れているのではないかの判断基準には成るかなと思っている。

でも今のうちだけで、そのうち忘れてしまっているかもな。



(主観的) 幸せになるための条件

愛聖クリニック
中田 安彦

この十年、我が国では3万人以上の自殺者がいます。また、世論調査では現状に不満な人、先行きに不安を感じる人達が多数居るそうです。今、この瞬間にも自らの不幸を嘆いて命を絶つ人がいます。この人達を救うために多くの精神科の先生方が自死の原因を病として追及しています。とても立派なことです。ぜひ解明して救って頂きたいと思います。一方、医師会会員の多くの先生方が世間の人々が健康で幸せな生活ができるように日々仕事に励んでいると思います。私も足りない能力をふり絞って日夜努力をしています。そんなある日、思いついたことがあります。もしかしたら幸せを感じていない(不幸せな)人達はどうしたら幸せになれるのかわからないのではないだろうか? 人生をふり返ってみたら私自身も自分が世界で一番不幸だと思っていたことがあります(ちなみに今、自分はとても幸せな人であると思う)。

また、世の中の有望な青年達の多くは人生経験の不足や知識・智恵の不足のために少し考え方を覚えるだけでとても幸せになれる人がいっぱいいるように思えます。

幸せな人が増えることによって自殺者が減るのではないかと思います。そこで私の主観的な幸せになるための条件を列記してみました。(自分自身で変えることができない条件は列記していません。)

- ・感謝できること。
- ・間違いを認めることができること。
- ・自分の気持ちを言葉に出して相手に伝えることができること。
- ・感情的に怒らないこと。
- ・感情的に怒鳴らないこと。
- ・汚い言葉・乱暴な言葉を使わないこと。
- ・綺麗な言葉を使うこと。
- ・周りの人が成長できる(幸せになる)ように手助けができること。
- ・謝ることができること。
- ・明るいこと。
- ・周りの人を楽しく(うれしく)させること。
- ・楽しく遊ぶこと。
- ・お互い様と思うことができる人。
- ・嫌なことはすぐに忘れること。
- ・未来を楽観できること。
- ・仕事や生活を楽しくすること。
- ・よく寝ること。
- ・よく体を動かすこと。
- ・おいしい物をおいしく食べること。
- ・何か楽しいことはないか好奇心を持つこと。
- ・一生懸命生きること。
- ・素直な人。
- ・人と比べないこと。
- ・自分を幸せな人と思うこと。
- ・健康な人、
- ・元気のある人、
- ・環境の変化に適応できる人。

他にも条件があるかもしれません。人それぞれのオリジナルな幸せの条件もあるでしょう。もし、友人に自分の不幸を嘆いている人が居たらあなたが信じる幸せの条件のアドバイスをしておせっかいを試してみたらどうでしょう。も

しかししたらあなたのアドバイスでその人がある日、不幸から幸せに戻って来るかもしれません。

友人が幸せになることは自分自身もまた幸せになれる瞬間だと思います。この文を読んだあなたが幸せになることを願って筆を置きます。



東京美術館事情

沖縄赤十字病院 神経内科
嘉手川 淳

美術館巡りが趣味の一つなので、旅行となれば事前に当地の美術館情報を入手し、時間が許せば赴くようにしている。西洋美術の鑑賞が主な目的である。最近では人生も半ばを過ぎたので、体力と知力があるうちになんとか、美術館事情が充実しているパリとウィーンに行くことを切に願っている。しかし諸事情を考えると実現の可能性はまだまだ厳しい。

旅行とは言っても、もっぱら出張の合間を見て美術館へ赴いている。出張先はどうしても東京が多いので、東京に多数の美術館があるのは好都合である。開館時間は通常は17時までであるが、金曜日はどこも20時までやっており、終業後に行くことも可能である。加えて東京独自の美術館情報やスマートフォンを利用した展覧会クーポンが、インターネットを通じて入手可能となっている。その他の情報源としては、NHKの「日曜美術館」や有名俳優のナレーションによる「美の巨人たち」などのテレビ番組のチェックも重要である。

さて東京とその近辺には、三つの国立美術館と二つの都立美術館、その他多数の公立および私立美術館がある。所蔵や賃貸の西洋美術品の充実度ではどうしても、国立美術館に軍配が上がるので、真っ先にそれらの情報に目が行

くことになる。

美術館は一般に、建物自体も建築物としての評価が高いものが多かったりするので、建物探訪も楽しみの一つである。例えば地方都市に有名建築家の設計による思いのほか立派な美術館があると、展覧会の内容はともかく、思わず足を運んでしまうことがある。また美術館内にはレストランが併設されていることが多く、展覧会には行かなくても利用することができる。レストランには従来型のパッとしないものが生き残っている一方、美術館の新築を機にフレンチやイタリアンを新設することがある。しかし残念ながら後者はあまりうまくいっていないようで、不幸にも閉店することもある。後者のレストランについては、美術鑑賞後に美食を楽しむという発想からかも導入されたのかもしれないが、富裕層も減った今は閑古鳥となっているのかもしれない。そもそも美術品と、水回りのあるレストランなどの湿気が合うはずもないように思うが。さらにミュージアムショップといわれる売店も併設されており、画集や美術関連の書籍のほかに、気の利いた小物やお菓子など多くの商品が置いてあり、お土産を買うのによい。

東京の代表的な美術館について

まずは国立西洋美術館から。上野公園内にあり、JR上野駅下車すぐと立地は良い。建物はかの有名なル・コルビュジエによるもので、世界遺産の登録申請もされたようだ。ただやはり古いので、バリアフリーという発想はあまりなく、企画展では階段の上り下りが必要で、多少の体力が要る。所蔵品は質量とも充実しているようで、常設展示の中にも見るべきものは多いという印象である。また近隣にはリニューアルオープンとなった東京都立美術館や上野の森美術館、東京藝術大学大学美術館があり、時間が許せば美術館の梯子となることもあり、愛好家としての満足度は高くなる。

東京国立近代美術館は北の丸公園にあり、東

京メトロ竹橋駅が最寄りであるが、企画展によっては東京駅からのシャトルバスの往復がある。建物はやや新しいようで、一応バリアフリーとなっている。以前は館内に有名レストランもあったが、閉店してしまった。近隣には東京国立近代美術館工芸館があるが、その名の示す通りの工芸品が主なので赴いたことはいが、皇居周辺の環境がいいところなので、散歩がてらに行くのはいいかもしれない。

国立新美術館は六本木にあり、東京メトロ乃木坂駅直結で、六本木駅からも近い。近隣にはサントリー美術館や森美術館がある。今のところ最新の国立美術館であるが、なぜ東京に三つ目の国立美術館が必要なのか、とのご指摘もある通りなのかどうか、なんと所蔵品を持たず(美術館と言えるのかどうか?)、企画展のみを行っている。当然企画展へは力が入るのか、同時に二つの大きな企画をすることがあり、朝一番から人であふれかえっている。昼になっても人が多いのだが、よく見ると併設のフレンチ(かの有名なポール・ボキューズ)に並ぶ長蛇の列であった。併設レストランが成功している例はある。前述の通り最新の施設なので、完全バリアフリーで、資料室もかび臭くない。その他のカフェもしゃれしており、美術鑑賞そっちのけといった感じで、館内にはやたらと人が多い。

日本の美術館の多くは率直に言って、所蔵品のみによる集客は困難な状況であるので、企画展が重要であることは言うまでもない。よほどの美術館好きでもなければ、やはり企画展の下調べが重要である。但し所蔵品の中に見たいと思えるものが一枚でもあれば、それを目当てに美術館に足を運ぶというのも、またいいのかもしれない。私事で言えば学生の頃に、東京のある私立美術館が所蔵するサルバドール・ダリの大作を見る機会があった。いつの間にかその美術館は閉館し、この件は忘れていた。最近になって、その作品が今は福岡市美術館にあることが分かったため、早速出張の機会を利用しその

絵との再会を果たしたという次第である。



人生ゲーム
～いかに偶然を楽しむか～

ながた内科クリニック

長田 光司

子供のころよく遊んだボードゲームが「人生ゲーム」でした(その当時は、テレビゲームやファミコンはありません)。子供なりにまだ見ぬ将来どんな人生を歩むのか、わくわくしながら友達と遊んだものです。職業は何か、子供が何人できたかと一喜一憂し、株券とか保険とか一人前に楽しんでいました。最終的には儲けた金額が勝負になるのですが、途中での出来事(株で得したり、保険に入って助かったとか、石油を掘り当てたなど)が楽しかったです。いま考えると現実的なゲームでもありました。ゲームで就く職業には、公務員、科学者、学校の先生もありましたが、みんなが一番なりたかったのが医師でした。一番給料が高かったので最終的にお金が稼げて有利になるからです。しかし、実際に自分になってみるとゲームとは違うようです(笑)。ゲームでは参加者の行方はルーレットで出た偶然の数字に左右されます。では私たちのリアル人生はどうでしょうか。毎日毎日、新しい日(マス目)がやってきて、起こる事象に対して行動を選択し、物事を処理していきます。その選択や行動がまた次の事象につながっていきます。ゲームでは次はこのマスに止まりたいとか、避けたいとか、ある程度希望をもってルーレットを回しますが、リアル人生ではすぐ先のマスに何があるか見えない分、さらに難しいです。ゲーム同様、リアル人生でも偶然が大きく関係します。人生は偶然の積み重ねです。私たちは偶然世界の中にいます。あらゆる出来事に偶然が作用し、偶然が運を運んでくれます。しかし、偶然に対して何かしら影響を与えている

ものがあります。それが私たちが行う選択や行動です。よく、サッカーの試合で相手のオウンゴールで勝つことがあります。確かにラッキーといえますが、相手ゴール前までボールを運んだから相手のオウンゴールを引き出したのです。運も実力のうちと言いますよね。また、選択には知力と経験が重要です。ご存知の方もいると思いますがこんな問題があります。

問題

テレビのバラエティ番組で、回答者は3つのドアのうちのひとつを選ぶ。その背後のどれかには当たりの車が隠されている。あなたがもしAのドアを選択したとする。番組の司会者は、どこに正解の車が隠されているか知っていて、不正解のCのドアを開ける。そして、あなたに「このままAのドアでいいですか、それとも、Bのドアに変えますか」と聞く。さて、あなたはAのままにいるか、それともBのドアに変えるか、どちらが正しいか？

AでもBでも確率は同じようですが、正解は「Bのドアに変えるべき」です。Bに変えると当たる確率はなんと2倍になります。詳細は省きますが、確率の計算ではそうなるのです。この問題は、「モンティ・ホール問題」という有名な問題です。確率のように、当たり前だと思っていることが実は間違っている場合が多いようです。競馬でも、もっとも「合理的」と思える判断を積み重ねていくと、必ず破産するそうです。偶然や確率をめぐるのは、自分でも気づかないカン違いがそこらじゅうに隠れています。

このように、偶然と言いつつ人間の論理的選択が反映したり、勘違いがあったり、何か人為的なものが関与したりして100%の偶然は思ったより小さそうです。ただ選択の際、あまり自分の信念や考えに縛られないことが大事です。人間は自分自身が下した決断からなかなか自由になれません。思考の柔軟性は必要です。一度決定したことで、環境や状況の変化に伴

い、いくらでも変化させることです。また、大きな問題が起こった時、できるだけすぐに判断せず、事態の流れをみていくつかの選択肢が排除されてから選択しても遅くないようです。相撲でも双葉山が「後の先」という戦い方で連勝を続けました。相手の出方をみてから一瞬遅れて立つことにより逆に相手より先手を取る方法です。偶然を良いもの（幸運）にするか悪いもの（不運）にするかは、できるだけ選択肢を減らして柔軟な思考で、事態の流れをみて臨機応変に対応することがいいのかも知れません。そうすれば、偶然が必然になります。難しそうですが、このように偶然世界の中を進んで行けたらきっと、リアル人生ゲームは楽しいものになるでしょう。偶然や運については、古今東西おもしろい話があるので、今後も皆様に紹介できたらいいと思います。

参考文献

集英社新書 植嶋啓司著 「偶然のチカラ」
 集英社新書 植嶋啓司著 「生きるチカラ」
 光文社新書 小杉俊哉著 「ラッキーをつかみ取る技術」



我が家の新参者

牧港中央病院 心臓血管外科
 上江洲 徹

ある調査によると、現代の日本では2人以上の世帯で何らかのペットを飼っている割合は48%にのぼるといふ報告もある。我が家にも1年半ほど前に子猫がやってきた。とはいってもペットショップで選んだわけで、自然に住みついたわけではない。ペットについて自分の歴史をひも解くと、小学生の頃に犬を飼っていたが、猫は祖父母宅で飼われていたことを思い出す。自由に飼われていたその猫は、昼間は寝ているか、外を出歩いて何しているか分からない状態であった。しかし、祖母が“猫まんま”を用意

して名前を呼ぶと、どこからともなくとんでもないスピードで走ってやってきた。今になって調べてみると、猫は犬に比べて4倍の聴力を持っているらしい。なるほど納得である。

さて我が家にやってきた子猫は、生後3カ月の雄猫であった。いろいろ案が出たが(自分は完全にまかせっきり)、名前は“あお”に決まった。品種がロシアンブルーであることから決まったらしい。なんとも短絡的な・・・と思ったが、呼びやすいこともあり、しばらくすると馴染んできた。この“あお”クン、初めは家にならすことと、トイレを認識させるためケージの中で過ごさせた。最初の2~3日は警戒していたが、そのうち慣れてくると、ケージの外に出せとばかりにやたらアピールするようになった。2週間が過ぎ、いざケージを開けたらさすが猫である。ダーッと駆け出したかと思うと、家の中を我が物顔で走りまわるようになった。子供たちも一緒になって遊ぶようになり、いい写真を撮ろうとシャッターチャンスを狙ったりしていた。

実際に猫を飼ってみて驚かされるのがいくつかあった。身体能力はさすがなもので、2段ベッドの梯子など、けっこう勾配が急でもすいすい登っていくし、走りながらのターンも素早い。部屋のドアが少しでも開いていれば、前足と顎を使って上手に開けて入っていく。特に我が家は引き戸が多いため、1cmほどの隙間があればそおーっと開けて入ってくるのである。これまで、四足動物が寝る時はうつ伏せになるか、せいぜい横になるものだと思っていた。飼いだから油断してそういうことをするのかかわからないが、なんと仰向け、しかも人間が朝目覚めた時に伸びをするような体勢で寝ていることがある。その姿を見た時は、思わず“おまえ本当に猫か？”と叫んでしまった。さらにその姿をよく目にするようになってくると、本来備わっていたであろう野生の緊張感が完全に失われてしまったように感じて、“もうちょっと猫らしくしたら？”なんて話しかけてしまう。

どの家庭でもそうだと思うが、ペットの食事や排泄物の世話は、飼う前は子供たちが交代で

すると宣言しても、いざ飼い始めるとその約束はどこへやら・・・、だんだん世話をしなくなり、大人(完全に妻にお任せ・・・)の仕事になる。しかし、ここは教育も兼ねて、できるだけ世話させるようにガミガミというのが自分の役割になっている。便はちゃんとトイレですが、尿はというとそうでもない。布団が大好きらしく、冬の間は油断するとやられてしまう!!。そのため各寝室はドアを閉めることとし、ひとり(一匹)では立ち入り禁止、必ず誰かが責任をもって監視することになった。しかし・・・、やられてしまうのである。また、雄猫のためか時々凶暴になることもあり(本人は遊んでいるつもり?)、足などをなめていたかと思うと、突然噛みついてくることもしばしばで、みんな少しずつ咬傷ができてしまった。

なんだかんだいって、家族の一員となった“あお”クン、一人前に健診も受けている。最近ではペットの医療保険もあり、予防接種から定期健診までであるとのこと。10年ほど前から動物病院が増えてきた印象はあったが、こういうビジネスも充実しているせいだろうか。日本でのペット保有率が高いのもうなずける。しっかりした健診のため、いやいや家族みんなの愛情のため、子猫もすっかり大きくなった。けっして肥満ではないが、今では体重が来た時の3倍近く(約5kg)になり、体長は70cm位あるだろうか、後足で立ち、壁に前足をついた状態になると、ドアノブに届きそうである。そのため、子供の友達が遊びに来た時に出る言葉は、きまって“で



かっ！”である。

野良猫が窓際にやってくることも多い。お互いに鳴きあっている（話している？）が、しばらくすると離れていく。一緒に外に行きたい気持ちはわかるが、ここは我慢してもらい、時々2階のベランダでストレスを発散させるようにしている。最近気になる言葉を妻がもらった。“お隣のベランダあたりに野良猫がやってくるけど、白い子猫でかわいいの・・・”とのこと。“飼うつもり？”とは聞けなかったが、こうして猫の魅力に心が奪われ、気がつくと猫屋敷になっていくのかなと思ってしまった。我が家はどうかになることやら・・・。



いつものやつ

医療法人 コザクリニック 神経内科
花城 清祥

店のドアが開き、L字カウンターの一番奥へ腰かけ、マスターと目が合うや「いつもの」。

少しだけ賑わっている店内。カウンターの隅でマスターと思われる人と時折しゃべりながら注文した一品をペロリと平らげ、グラスワインをグイと飲み干すともものの30分で店を後にしていく…。

こんなドラマのワン・シーンのような情景に数年前から憧れています。

レストランでもバーでもなんでもいい。いつかお決まりの店でこの台詞を言うことが細やかな夢です。

ただ、私はこれとって好きな食べ物、飲み物があるわけでもなく、休日でも食べ歩くわけでもなし。家の事情もあり、そうそう夜遊びができるわけでもなく…。

でもこの情景への憧れは、夜遊びができない

ことが理由ではないようです。夜遊びができる状況でも、特に何をするわけでもなくビール片手にインターネットで車情報やYouTubeをダラダラと見ているのが現状だからです。お酒も量はあまり飲みませんが、ビールから焼酎、泡盛、ワインなど何でも飲み、食べ物もヒージャー以外は一応何でも食べます。でも逆に「絶対この料理でなきゃ！」といったこだわりもありません。「いつもの」一品で思い浮かべるものも、あるときはドリア、あるときはビーフシチューと決まっていませんし。でもなぜかお酒だけは赤ワイン。詳しくはないため銘柄は不明。ただ、あまり酸味は強くないというこれまた漠然としたもの。お酒が赤ワインと決まっているので、「一品」は中華や鮭ではなく洋食なのです。

ではなぜ、あのような情景に憧れるのか？

私が考える“いつものお店”とは、自宅から歩いて通え（10分以内）、値段も手ごろで味もさほどコッテリでなく（毎日通っても安心な）、かつ、混んでいるわけではないがガラガラでもない（つぶれない程度にそこそこ繁盛している）お店なのですが、あちらを立てればこちらが立たずという条件を並べているので自分でもこんな店まずないよな～と思ってしまいます。しかも、今挙げた条件には料理が入っていません。料理はイタリア料理だろうがフランス料理だろうが何だかっていいのです。とにかく、いつも頼める一品を何か。結局、漠然と雰囲気だけに憧れているのでしょうか？居心地のいい場所・時間に憧れているだけなのでしょうか？

自分なりにいろいろ考えてみましたが、どうもそうではないようです。優柔不断な性格のため、“絶対この店！！”という店を絞りきれないだけなのではないか？「いつものお店」は、この性格から脱却したいという願望の現れなのではないか？と最近考えるようになりました。

最近、お気に入りのカレー屋さんがあり、月



を過ごす事ができた2年間であった。この時、長女が誕生した。

石垣島での時間は、親としての自分を再確認させてくれただけでなく、医師としての自分を見つめ直す良い機会にもなった。患者を最初から最後まで主治医として責任を持って担当させて頂く事で医師の醍醐味を味わえ、責任の大きさの“大きさ”に気付く事ができた。特に癌の患者さん達には医師として様々な事を教えて頂いた。少なからず別れもあったが、強烈なメッセージを私に残してくれたのである。

そして去年より沖縄県立中部病院で心臓血管外科として働かせて頂いている。わずか1年ちょっとのキャリアだが、既に数10例の大手術を術者として経験させて頂き、患者が劇的に良くなる姿に医師としての喜びを感じ、また上級医より叱咤激励を毎日頂きながら何とかもがいている毎日である。

そして最近次女が誕生した。私も妻も内地出身であるため近くに親戚がいない。そのため私がいなくときは子育ての負担は全て妻が背負う事になるので、私が家にいるときはなるべく妻の負担を減らすよう努力しているつもりである。当直明けであろうが、休日は子供達を連れて公園へ行き、雨の日には屋内施設で思いっきり遊ばせる。正直疲れるが、何とも言えない充実感がある。

昔ながらの先輩医師は皆口をそろえて自分が研修医の時の忙しかった自慢をする。子育てにはほとんど参加しなかった、と。笑い話ではあるが、それに違和感を抱くのは私だけであろうか。私は医師である前に父親であり、家族があってこそ今の自分である。私が留守の間、3人の子供の面倒見てくれる妻、理解ある上司に改めて感謝するとともに、今後ますますパワーアップしていくであろう子供達の成長を、一番近くで見守って行きたい。



自分の好きな食べ物 あれこれ

北部地区医師会病院
中村 洋祐

北海道から沖縄にやってきて早2年になります。沖縄の生活も慣れてきました。

私は秋田県の横手市という県内有数の豪雪地帯で高校までを過ごし、大学時代と医師になってから7年間を北海道で暮らしました。北海道で暮らした街は札幌市、室蘭市、旭川市、滝川市（滝川市は名護市の姉妹都市であります）です。雪のないところでは生活しないだろうと思っていましたが、縁あって現在沖縄で働いています。

今回は雪国と南国での食べ物の違いや、自分の好きな食べものの思い出などをお国自慢や宣伝も兼ねて書いてみることにしました。

沖縄はおいしい食材を手軽にそして身近に楽しむことができるのではないかと思います。沖縄の魚はおいしいと思います。新鮮な魚が近くの市場やお店で手軽に買うことができるのが嬉しいです。よく沖縄の人からは北海道の魚のほうがずっとおいしいでしょうと言われます。確かに北海道で獲れる魚もおいしいですし、蟹もおいしいです。ですが、それらを楽しむには相応のお店でそれなりの投資をしなければなりません。普段の食卓で蟹がでてくることは残念ながら自分の経験上ありませんでした。北海道でも漁港のある町に住んで市場に行けば新鮮な魚を低価格で手にいれることはできると思いますが、そういうことをできる人は北海道でも限られた人数だと思います。

沖縄そば大好きです。沖縄そばの店はどこに行っても自分はおいしいと感じます。北海道はラーメンがおいしかったです。札幌ラーメン、旭川ラーメンそれぞれ特色があっておいしいです。沖縄そばもおいしいですが、日本そばも好きです。自分が一番好きな蕎麦屋は、幼少時代



から食べていた秋田の西馬音内という町にある蕎麦屋さんです。西馬音内は国指定重要無形文化財である西馬音内盆踊りが行われる町なのですが、蕎麦屋さんは何件かあります。調べてみたら西馬音内そばの特徴は、「つなぎに布海苔を使い、独特の風味とコシに特徴がある。冬でも冷たいかけそばいわゆる、冷やがけを食べるのが地元では定番である。」とのこと。確かに冷やがけをよく食べてました。今でもそばというと冷たいそばのほうが好きなのは、西馬音内そばの影響なのかもしれません。沖縄そばもおいしいですが、たまに無性に日本そばが食べたくなります。大宜味村でそばの栽培を行っているようなので、頑張ってほしいと思っています。そばではないですが、実家の横手市は横手やきそばというB級グルメで町おこしをしています。市販の沖縄そばで焼きそばを作ると横手焼きそばみたいな感じになります。麺が似ているのでしょうか？

沖縄に来て豚肉のおいしさを知りました。沖縄ブランドの豚肉はとてもおいしいです。鶏肉、牛肉もおいしいです。やぎは自分は得意ではないですが、羊と似ている所があると思います。妻の実家である滝川市はジンギスカンが名物なのですが、羊の文化があるせいなのか、羊料理の専門店があります。ラムコースというのがある、羊のいろんな部位を使った料理が楽しめます。メニューの一例をあげてみると、胃袋のトマト煮込み、手抓肉（シュウパウロウ：モンゴル風塩煮 とてもおいしいです。）、脳みそのフライ（一度食べたことがあります。くせもなく

白子みたいな感じでした。プリオンのことを考えるとちょっとですが・・・）滝川市は札幌からJRで50分なので、もし札幌に来る機会がありましたら足をのばしてみてください。

酒は自分は強くはないですが好きです。沖縄の泡盛は安くておいしいと思います。秋田で酒といえば日本酒です。問診で「お酒は何を飲みますか？」という質問に日本酒の銘柄を答える人もいます。日本酒は大吟醸といったおいしいものを飲もうとすると結構な出費になります。また、日本酒に合う肴を用意するのは結構難しいです。自分の感想では泡盛はビール感覚で色々な料理に合うと思います。デイリーに飲むには泡盛のほうがコストパフォーマンスはよさそうです。

沖縄のタイモの畑を見たときに、秋田のサトイモ畑を思い出しました。タイモもサトイモも仲間だと思いますが、秋田ではサトイモのことを「いものこ」と呼び、収穫される秋にはいものこ汁といってサトイモを入れた味噌汁をよく食べます。山形の芋煮会と似ていますね。

秋田の人は漬物をよく食べます。昔は冬の保存食として食べていたのがルーツでしょう。沖縄のスーパーにも漬物は売っていますが、内地のものが多く気がします。自分は塩分のことを考えて漬物はあまり食べませんが、秋田の漬物は種類も多いしおいしいです。たくあんをいぶした「いぶりがっこ」が好きです。

暇があると食べ歩きに出かける夫婦共通の楽しみです。これからもおいしいものを探して沖縄を彷徨いたいと思います。

原稿募集！

随筆のコーナー（2,500字以内）

随時、募集いたします。日常診療のエピソード、青春の思い出、一枚の写真、趣味などのほか、紀行文、特技、書評など、お気軽に御寄稿下さい。